

第11回 全国版 子どもの集い・交流会 実施報告

親&子どものサポートを考える会

錦秋の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は「親&子どものサポートを考える会」の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

去る10月14日(土)に『第11回 全国版 子どもの集い・交流会』を開催いたしました。終了後に実施したアンケート結果をもとに報告させていただきます。今年は、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、対面とオンライン(Zoom)のハイブリッド方式で開催いたしました。

1. 当日の参加状況

午前みの参加者の方もおられましたが、子どもの立場の方17名(会場8名、オンライン9名)、講師1名、スタッフ12名(託児スタッフ2名を含む)の参加で合計30名でした。

終了後のアンケートには10名の方から回答をいただきました(アンケート回収率58.8%)。参加者の居住地は、関東地方6名、中部地方3名、近畿地方1名でした。参加回数は、初回の方が1名、2回目3名、3回目以上の方が6名でした。

2. 当日の流れ

当日は、最初にルポライターの杉山春さんから『社会は家族に何を強いてきたか』というテーマでご講演をいただき、その後、質疑応答も兼ねて参加者全員でディスカッションを行いました。昼休憩を挟み、午後はスタッフも入った小グループで意見交換⇒全体共有という流れで開催しました。

午前の杉山春さんの講演は、DV・虐待といった杉山さんがこれまで取材してこられた親子の状況から語られました。少し重い空気が流れましたが、そのようになってしまう背景には、社会が求める「家族」「親役割」「性役割」というものがあり、その規範や価値観にとられ過剰適応しようとするところがあるのではないか、子どもも親を助けるのが役割という規範が働いているのではないか、と問題提起をいただきました。それを基に皆でディスカッションすることは、親子の状況を少し違った角度から捉えることが必要であったため、初めは意見が出にくく、「親の介護をせざるを得なくてやってきたが、親を支配してきたことになるのではないか」という疑問も出されました。ディスカッションを繰り返していく中で、ジェンダーや家族という規範に縛られていることに視点が向けられ、「私たちが何とかせねばとやってきたことは、“過剰適応”の状態だったんだ」と、「過剰適応」と名づけられたことで、しっくりきたと話され方も多かったです。

午後は会場参加者8名を2グループに分け、オンライン参加者は5名だったためそのまま1つのグループとし、3グループに分かれて語り合い、その後、全体共有を行いました。どのグループも午前の講演を受けてどんな風感じたか?というところから意見交換が始まったようです。DV・虐待という重いテーマから始まった講演でしたが、午前のディスカッション、午後の語り合いと、自分の思いや体験を語る中で、徐々に講演内容についても消化されていったように思いました。

3. アンケート結果

1) 参加動機

今回の講演の講師やテーマに関心を持たれた方もみえましたが、これまでもそうであったように同じ立場の方とお話したい、共感したいなど、全国の仲間とのつながりを求めて参加された方が大半でした。

2) 満足度

60%・1名、70%・1名、80%・2名、90%・4名、100%・2名

それぞれ、以下の理由が挙げられた。

《60%の意見》

- ・もう少し春さんのお話を聞いてみたかった。

《70%の意見》

- ・家族が役割意識を持ちすぎると、暴力的になるという視点を得た。
- ・小グループの語り合いで、地域包括支援センターに、ひとまず母のことを話しておくのは有用だと知った。

《80%の意見》

- ・数年ぶりに、たくさんの方と直接お話できた。
- ・色々な視点から子どもの立場を理解出来た。

《90%の意見》

- ・講演やディスカッションで気づいたことや参考になったことがあった。
- ・午前中の講座は、過去の体験に重なることがあった。言葉にできないモヤモヤが少しずつクリアになったことや、もっと知りたいと思うことなど、頭の中が一杯になってしまった。緊張もあったが、とても充実した時間だった。
- ・こじんまりと落ち着いて参加できた。

《100%の意見》

- ・とにかく対面での開催がとてもうれしかった。
- ・春さんの講演や皆さんとの語り合いの中で、今までぼんやりしたイメージだったことが言語化できたり、自分と少し環境の違う方の体験を聴く中で、新しい視点を持つことが出来た。
- ・参加者それぞれの思いが共鳴しあって、自分の考えが深まる思いがした。

3) その他の感想

- ・この集いの対面での交流は、他の何事にも替えがたい、貴重なことだと感じている。遠方で参加をあきらめてしまった人の中に、オンラインでも良いので参加したいという方もいるのではないかと思うが、子ども特有の対人関係に敏感でオンラインが苦手な(対面と比べて気持ちが伝わりづらいことに強いストレスを感じる)方も多いかもしいない。
- ・講演では虐待の背景にある加害者の心理について理解が深まった。質問に対しても率直に答えていただき、嬉しかった。他の参加者の方の感想や体験なども聴けて参考になるなと思うこともあった。運営の方も質問や感想を発言しやすい雰囲気を作っていただき、

ありがたかった。

- ・午後の語り合いの場に、杉山春さんも参加されて、より幅広い話題を皆さんでお話してきたと思う。午前も午後も、集中力が必要で重い話題の時もあるが、スタッフの方々が場を和ませてくださったりして、ありがたく感じている。
- ・やっぱり対面がいいなーとオンライン参加して思った。
- ・土田先生、杉山さんをはじめ、スタッフの方々、参加者の皆さんと直接お話しできたことは私にとってとてもありがたい場となった。表情や場の空気を感じられることも、安心して参加できたことに繋がったと思う。
- ・午前の講演のテーマがどこに行くのかと思ったけれど、話をきくだけでなくディスカッションもありよかった。午後は私のグループは年代も性別も様々、いろんなちがいがあってもちがいがあるのは当然なんだ、共通していることをたいせつにしたいとあらためて思った。
- ・午前中は講演だけだと思っていたのですが、語り合いの場があったので戸惑った。
- ・午前の講演が話題提供となって自分のことや家族のことを振り返りながら聞くことができ、その後語り合いに移れたのはよかった。オンラインは慣れない方にとっては語り合いに参加しづらい面もあるかと思うが、現場に出向けない方にとって確実に参加のハードルは下がると思う。オンラインでも定期的開催していただけたら嬉しい。

4. 全体を通しての総括

新型コロナウイルスが5類に移行されたことに伴い、この全国版の集いも従来の対面、午前・午後の2部形式での開催に形を戻して実施しました。対面参加とオンライン参加がちょうど半数ずつの人数でしたが、参加者が参加形態を選べる形であり、安心して参加できたのではないかと考えています。

親子や家族の問題を社会的な視点で見るとどんな風に見えるか、社会的な視点でとらえ発言してくださる方に講演を・・・と考え、ルポライターの杉山春さんの講演に設定させていただきましたが、講演内容・テーマが少し重い内容のものになってしまい、「講演内容が自分たちとどう関係してくるんだろう？」とモヤモヤした感覚を残してしまいました。午前の質疑・ディスカッション、午後の小グループでの共有と、感想や思い、体験を語り合う中で、徐々にモヤモヤを消化していく形になりましたが、午前だけのオンライン参加者に対しては、会場参加者のようにスタッフから声をかけたり、フォローすることもできず、後に疑念を残さないテーマ設定が大事な・・・と改めて感じるようになりました。こうした反省を基に、またアンケート内にいただいた皆さまの要望を基に、次年度以降の内容・テーマについて検討し、開催していきたいと思っております。

開催に当たり、ご協力いただき、ありがとうございました。

2023年11月吉日
親&子どものサポートを考える会
世話人代表 土田 幸子